

四、全體生活指導の系統案の作製

兒童生活の特異性と陶冶財の獨自性に立脚して全體生活擴張の教育を徹底せしめるためには生活指導の具案的系統案が必要である。本系統案中の生活財はすべて生活財の原理に立つて兒童生活の全野に亘つて價值のあるものを取り、共通生活財を主體としてその間に個人的生活財も取り得る様に考慮したものである。

勿論本系統案はそれ等生活財のすべてを示したのではなく私の生活記録よりその主要なもののみをあげることにした。兒童の生活内容は常に變化し進化するものであり偶發的事項も数多くあるものであるから、生活財の補充、減少を必要とする場合があつて當然であり、又かくすることはやがて本案の精神を一層活かす所以となるのである。

生活題目の排列に於ては季節的關係を顧慮し而も大體は循環法によつて排列して反覆深化し反覆補充する様考慮したのである。

(一) 系統案についての注意

- 1 生活内容に就ては各種の指導の方法原理を考慮しつゝ記したが必ずしも固定的のものではない。よろしく動的に之が活用を工夫せねばならぬ。
- 2 童話その他の文學的なものは案の都合上割愛した。
- 3 各生活題目による生活は數日間繼續される場合もあれば、數回に分割されてその生活財の最も生活價値の濃厚な場合に生活せしめる場合もある。
- 4 生活内容を記す場合に兒童の學習様相を顧慮して入れたがこれも實際學習に當つては既に述べた各種の學習様相を考慮して行かねばならぬ。
- 5 各教科教材への連絡を示したがそれが兒童の生活目標のすべてではない。全一的な生活の中に於て充分に徹底はさせるがこの方面以外にも幾多の指導目標があり、かくして生活は全體的に擴張されなければならぬ。

(二) 系統案の實際

尋常科第一學年

第一生活題目一覽表

月	第一學期	月	第二學期	月	第三學期
四	入學當初一週間の生活 學校のお庭 積木遊び 東光寺山 私のからだ 春の公園 春の野原 濱の宮遠足 鳩ボツボ 雨降り 天長節 かるた取り 招魂祭	九	夏休みの仕事 火事 二百十日 朝顔 砂場遊び お月見 お彼岸 秋の遠足 秋の虫	一	お正月 内の人 寒稽古 乗りもの 花咲爺 風車 衛生室 私のからだ

五月の節句 マクノ鳥 いろくの島 温遊室 山遊び 八百屋ごっこ 毒のうし 私軍記念日 海軍記念日 朝の運動會 春の運動會	六月のカレンダー 開校記念日 私の口 水端遊び 時の記念日 かたつむり ほたる 梅雨 此頃の農家 私達の村 猿蟹合戦
十月のカレンダー 市川の河原 城北祭 葦狩 秋の學校園 桃太郎 明石公園 秋の田	體育大會 明治節 菊の花 紅葉と落葉 しやぼん玉 姫路祭 お客遊び 犬と猫
牧場分 節り 雪降 紀元節 かげみ遊び 阿保河原 追帯會	雛祭り 誕生日 陸軍記念日 大江山 春ごしらへ

五月の節句 マクノ鳥 いろくの島 温遊室 山遊び 八百屋ごっこ 毒のうし 私軍記念日 海軍記念日 朝の運動會 春の運動會	六月のカレンダー 開校記念日 私の口 水端遊び 時の記念日 かたつむり ほたる 梅雨 此頃の農家 私達の村 猿蟹合戦
七月 水屋さん 七夕まつり 夏の野菜と果物 玩具屋ごっこ 夏の姫山公園 プーリ 蟬取り 白濱の海水浴 朝の顔 お手紙ごっこ 夏休み	十月 せいしん拂 私達の遊園地 猫と鼠 義士會 病氣 お正月の楽しみ
指導の着眼 ○挨拶をする態度をつくる ○名札を念のため読んで見る様に ○お話を聞く態度 ○簡単に子供らしい式であること	各科教材との連絡

- 5、式後神宮に参拜し、入學奉告祭を行ふ
- 二、教室へ案内する
 - 1、受持児童を教室に引率し、所定の席につかせ保護者の席は教室の兩側と後方に定める(教室に入る前に便所に行かせる)
 - 2、名前をよんで返事をする稽古をさせる
 - 3、お話し合ひ
 - イ、學校の名前について
 - ロ、受持教師の名前について
 - ハ、好きなお勉強や遊びについて
 - ニ、學校にはいろいろな遊び道具、砂場、繪本がたくさんあつて、お友達が多いので面白いこと
 - ホ、知つてゐるお話について
- 教師も入學當日にふさはしい童話をしてやる
- 三、學校内の案内
 - 1、自分の下駄箱
 - 2、校舎内外の一巡——簡単に
 - 3、便所——用便の仕方、手の洗ひ方
 - 四、挨拶の仕方「さようなら」を練習させ、保護者に渡して別れの挨拶をさせて歸らせる

- 神様にお参りする時の態度を訓練
- 保護者より離れてもよく行動する様に
- 憧れの感じに充分浸らせる
- 教師と児童との親しみ
- 児童の發表態度を盛り立て、やる
- 児童の個別的觀察
- 自分の名札の読みと場所の記憶
- 學校生活の氣分を味はせる
- 保護者にも教育方針及入學當初に於ける児童に對する諸注意を簡単にする

第二日の生活

- 一、朝會前の仕事
 - 1、朝の挨拶のお稽古
 - 2、机の座席、靴の置場所、下駄箱等を忘れた者に教へ、自分で始末させる
 - 3、下履を履きかへて朝會の場所の後方に集る
- 二、朝會の參觀
 - 1、上級生はごんなに並んでゐるか
 - 2、ごんなお話があるか
 - 3、ごんな體操をしてゐるか
 - 4、ごんなにして教室に入つてゐるか等につき氣のついた點の發表と整理
- 三、學校内の案内
 - 1、職員室、各教室、衛生室、特別教室、小使室、便所、手洗場、湯呑場等につき場所の名前と何をする所かを知らせる
 - 2、上級生の學習振も參觀させ、特に在學兄弟の教室を覺はさせる
 - 3、中庭の金次郎さんの銅像の話と禮拜
- 四、運動場で自由な遊び
 - 1、上級生の遊びの見學
 - 2、七り壘、ぶらんこ、遊動圓木等についての遊び

- 毎朝挨拶を忘れぬ様に
- 出来ればお隣のお友達の名前や場所もおぼへさせる
- 自分の事は自分でする様に
- 一人勝手に離れぬ様に
- 朝會の氣分の感得
- 充分注意して觀察する態度
- 一所に朝會をして見たい氣を醸成する
- 喜んで發表する態度
- 學校生活の概略を見させる
- 學習氣分の喚起
- 兄弟の教室に一層の親しみを持たせる
- 元氣で仲のよい遊び方を見させる
- 面白く仲よく遊ぶ態度
- 遊び道具の使ひ方に關れさせる

讀話し方の修練

修ヨクアソビヨクマナマ

<p>第三日の生活</p>	<p>五、教室内の學習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、教室内に備へ付の種々の道具、學用品等についてその名稱を自由に發表させる 2、同種の物については數を調べさせる 3、簡単な童話を聞かせる 4、既知の唱歌の練習 6、歸りの挨拶、家に歸つた時の挨拶について話させ、歸り途の注意をなし、門まで送つて歸宅させる 	<p>○用具及びその使用法を知らせる</p> <p>○發表慾を満足させる</p> <p>○數觀念の整理</p> <p>○お友達と一所に唱ふ喜びの感得</p> <p>○忘れぬ様に挨拶をする態度</p>	<p>算 基數の數へ方</p> <p>唱 面白く喜んで 唱ふ態度</p>
<p>第三日の生活</p>	<p>一、朝の挨拶及朝會前に於ける學用品の始末</p> <p>二、朝會の參觀</p> <p>三、下駄箱の使い方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、使ひ方についての反省をなし、話合ひによつて直させる <p>四、學用品のしまひ方について反省批正</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、帽子、袍の始末のしかた 2、机の中の整理 3、學用品の名前づけ 4、自分のものさ人のもの 5、持ち物に名前をつけるわけ 6、落し物のあつた時の注意 <p>五、好きな遊び</p>	<p>○昨日よりは上手に</p> <p>○整頓の習慣をつくる</p> <p>○話合ひによる批正</p> <p>○人のも参考にする態度</p> <p>○言語發表の訓練</p> <p>○大事に取扱ひ、區別をはつきりつける</p> <p>○親切と感謝の念の啓培</p>	<p>修 ジアンノモノ トヒトノモノ</p>

<p>第四日の生活</p>	<p>江り壺、ぶらんこ、遊動園木等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、どうすれば面白く遊べるか 2、順番に乗る 3、上級生の遊びの種類と名前づけ <p>六、名刺の交換</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、自由な机間巡覽により人の座席の名前を讀ませる 2、名刺型の紙を配布し各自の名前を書く 3、名刺の數へ方及他人との交換、人の名刺を讀み顔を感じる 4、教師の名刺とも交換 <p>七、家庭に於ける日用品の繪畫表現</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、どんな物があるかの話し合ひ 2、用紙を配布し、家庭に於て繪に描かせる <p>八、内容の變化の多い童話</p> <p>一、朝會前の仕事——學用品の始末</p> <p>二、朝會の參觀</p> <p>次の生活へ發展する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、帽子を取るこゝ 2、立禮の練習 3、二列縦隊に並んで見る 4、曲りなりに並んで歩く練習 	<p>○共同生活の初歩指導</p> <p>○順番を待つ態度</p> <p>○人の名前の讀みになれさせる</p> <p>○姓名の文字化と文字力の調査</p> <p>○社會性の萌芽の助長</p> <p>○假名文字の讀みの指導</p> <p>○家庭に於ける物品の想起</p> <p>○用紙の數へ方指導</p> <p>○個物の繪畫表現になれさせる</p> <p>○描畫方の調査</p> <p>○漸次上手に敏速になす様に</p> <p>○漸次よき習慣態度をつくる様に</p> <p>○並ぶ意識をもつこゝ</p>	<p>修 ケンクワチス ルナ</p> <p>算 假名文字の發 表基數及二位數 の數へ方</p> <p>圖 日用品の寫生 的表現</p> <p>修 ジコクナマモ</p>
---------------	--	--	---

- 5、教室に入る前に用便をなすこと
- 三、昨日家庭で描いて来た繪を中心とした學習
 - 1、机の上に並べる
 - 2、自由に机間を廻り、人の繪も見させる
 - 3、描いた繪の名前を言はせる
 - 4、裏に自分の名を書いて提出させる
- 四、好きな繪
 - 1、一番好きな繪を描かせる
- 五、物集めと砂場遊び
 - 1、イシ、キノコ、スナ等の文字を土の上に書いて集めさせる
 - 2、集めて来た物の名を書かせる
 - 3、集めた物の数を調べる生活へ發展
 - 4、數字を示してその数だけ集めさせる
 - 5、砂場で好きな遊びをさせる
 - 小石、木片、木の葉等の使用
 - 6、汚れた手を手洗場で洗はせる
 - 混雑する
 - 如何にすれば上手に洗へるか

- 走らぬ様よく氣をつけて行く事
- 家庭での學習と學校での學習とを一つの生活の流れとして指導
- 如何に上手に、又何を描いてゐるかの觀察態度の助長
- 語彙を豊富に
- 畫的表現態を満足せしめ、表現能力を觀察調査する
- 文字を読む力をつける
- 事物の文字化の練習
- 一齊的、分關的、個人的に指導
- 物を數へることに數字との結合
- 數字の讀み方のいろ／＼
- 手工的表現傾向と表現力の觀察
- 仲よく手傳ひ合つて作る態度
- ディスカッションの初歩の指導
- 順番を待つ態度

讀
片假名文字の
收得
算
數へ方
數字の書き方
讀み方
手
砂場遊び

- 第五日の生活
- 一、お話ごっこ
 - 1、朝會後運動場で圓陣を作る
 - 2、昨日學校であつたことを話す
 - 3、昨日歸つてから家庭であつたことの話
 - 4、今日も楽しく學習をする氣分へ
 - 二、おもちゃの會
 - 三、水の止め方
 - 四、手の洗ひ方
 - 五、手の拭き方
 - 六、洗ふ順序
 - 六、二列縱隊の並び方及歩き方
 - 1、集れの練習
 - 2、前にならへの練習
 - 3、伊傳居のお宮に參拜
 - 神様に參つた時の禮のしかた
 - 神様についてのお話
 - 途中の歩行を上手に仲よく
 - 七、今日の學校生活を話させる
 - 1、いろ／＼思ひ出して生活の面白さを仲よくお話しする
 - 八、歸る用意と挨拶

- なるべく敏速に集る様に
- 押し合ひなせぬ様に
- 目と手を有効に使ふ様に
- 敬神の念の啓培
- 列を作つての歩行練習
- 生活の表現になれさせる
- 言語發表の姿勢態度
- 聴く態度の訓練
- 一日一日と上手に出来る様に

體
縱隊の並び方

第六日の生活

- 一、學用品の値段しらべ
- 1、種々の學用品の種類をしらべさせる
エンピツ、ゴム、クレオン、トクホン、
シュウシン等
 - 2、それ等の値段を相互研究させる
 - 3、グラフ用紙に値段の記入
 - 4、値段の和又は差の求め方へ進展
- 二、猫と鼠、又は組作り鬼の遊び
- 1、適當に交替して行ふ
- 三、好きな集り
- 1、出演のプログラム作製
兒童の話し合ひを中心として
 - 2、教室の裝飾——紙鎖の製作
 - 3、プログラムをノートに書寫
- | | |
|---------|------|
| 一、オハナシ | コンドウ |
| 二、ウ | ヤマモト |
| 三、オハナシ | ヨシダ |
| 四、ウ | クリハラ |
| 五、オハナシ | イシザキ |
| 六、ウ | ミンナ |
| 七、オハナシ | センセイ |
| 八、チクオンキ | |
- 4、實 演

- 相互學習の態度
- 物の値段に關心を持つ様に
- グラフ學習の初歩指導
- 事實算問題構成の初歩指導
- 仲よく面白く揃ふて遊ぶ態度
- 相當敏捷に行動する様
- デイスカツシヨンの態度の助長
- 喜んで發表する態度
- 共同作業でする習慣
- 文字の練習
- 個性の觀察
- 自然な發聲で元氣よく唱ふ態度

算 基礎の數詞と量との結合 作問の初歩指導

手 読 缺の直線切 假名文字の收得練習

唱 レ 既習曲の練習 コードの鑑賞

- 1、好きな玩具のお話をさせる
 - 2、玩具を作業臺の上に並べさせる
 - 3、玩具を使って自由に遊ばせる
玩具をもてあそぶ喜び
機械的のものについての不思議さ
- 自由會話
- 4、好きな玩具の名前や繪を描かせる
 - 5、玩具の數、種類分けにした個數の調査
 - 6、唱歌「お人形の歌」の練習
 - 7、玩具のマーチ其他レコード鑑賞
- 三、肋木の登降
- 1、肋木を自由に登降させる
 - 2、肋木の數の調査
- 四、片假名カードでの學習
- 1、知つてゐる文字を出させる
 - 2、言つた文字を探させる
 - 3、簡単な名詞をカードで綴らせる
 - 4、相互に見廻らせる
 - 5、カードの使ひ方、しまひ方を知らせる
- 五、讀本の自由讀み
- 1、讀める所まで讀む
- 六、面白い童話を聞かせる

- 學習動機の喚起
- 分類的に上手に並べる様に
- 遊び方の範圍擴張
- 玩具使用の愉快
- 玩具の文字化
- 教へるよりも動機を作る事
- 數字の收得と練習
- 可愛らしく唱ふ様に
- レコードに合はせて唱ふ態度
- 面白い中に懸垂運動を
- 教へるよりも動機を作る事
- 發表慾の満足
- 文字の收得
- 相互學習の態度
- 整頓よくすること
- 發表慾の満足
- 本の開け方と音讀の指導

修 ル ケン クラ ナ ス

讀 習 文字の收得練習 玩具の寫生的描畫 數字の書き方

唱 お人形

體 行進と懸垂運動

讀 既知文字の整理 片假名の收得應用

<p>学校のお庭</p>	<p>5、感想の自由話し合ひ</p> <p>一、鉛筆と帳面を運動場へ持って出て自由学習</p> <p>1、お庭の木をしらべ</p> <p>木の 名</p> <p>木の 葉</p> <p>木の 数</p> <p>2、お庭の花をしらべ</p> <p>櫻、桃、椿、其他花壇の草花</p> <p>温室の草花</p> <p>花壇の手入もする</p> <p>花の種子を蒔く</p> <p>3、お庭の生物について</p> <p>蝶、蜜蜂、小鳥、鶴、鳩、兎等</p> <p>家畜、家禽に餌を與へる</p> <p>文字表現以外にも繪畫表現をする</p> <p>二、調査結果の相互學習</p> <p>運動場で随時行はれる</p>	<p>○學級の親睦</p> <p>○相互學習の初歩指導</p> <p>○事物の文字化と文字の練習徹底</p> <p>○土に親しむことの喜びの感味</p> <p>○木の數、花びらの數の數へ方</p> <p>○蒔いた種子の継続的な世話</p> <p>○生物の生活状態</p> <p>○生物と親しみを持たせる</p> <p>○屋外での學習訓練</p> <p>○自發的な學習態度の助長</p>	<p>讀 ハナ</p> <p>算 十以下の加減 數觀念の整理</p> <p>圖 草花樹木の寫 生的描寫</p>
<p>積木遊び</p>	<p>一、積木材料の共同蒐集</p> <p>二、いろ／＼な積木遊び</p> <p>個人的に</p> <p>分關的に</p> <p>三、繪によつて構成させる</p>	<p>○積み方の考案</p> <p>○共同作業を仲よくする態度</p>	

<p>東光寺山</p>	<p>四、積木材料の交換</p> <p>五、作つたもの、名の記載</p> <p>一、學校より東光寺山への途中に於ける觀察</p> <p>1、中 學 校</p> <p>2、田園の様子</p> <p>3、小川の流れ、魚</p> <p>二、お宮へ参る</p> <p>1、神様のお話と禮拜</p> <p>2、繪馬、こまいぬ</p> <p>3、燈籠</p> <p>4、手水鉢——手水をつかつて参拜</p> <p>5、樹木</p> <p>6、石段の數しらべ</p> <p>三、山上よりの眺めと話し合ひ</p> <p>1、八代、新在家方面の人家</p> <p>2、お城、町、練兵場</p> <p>3、水源地と男山</p> <p>4、市川と橋</p> <p>5、飾磨の煙突と沖の舟</p> <p>四、印象深き點の畫的表現</p>	<p>○列を作つて歩くことの練習</p> <p>○觀察態度の啓培</p> <p>○お宮では禮拜する習慣</p> <p>○敬神の念の養成</p> <p>○變化の多い郷土の風物</p> <p>○歴史的遺跡と文化的設備</p> <p>○既知事項の發表と整理</p> <p>○興味を以て表現する態度</p>	<p>修 レケンキョクア</p> <p>算 十以下の加減</p> <p>圖 けしき</p>
<p>私の中から</p>	<p>一、今までの健康状態</p> <p>1、病氣にかゝつた時の經驗發表</p>		

春の公園	
一、公園の花見	<p>2 病氣の名前</p> <p>3 病氣の苦しさ、淋しさ</p> <p>4 醫者に見て貰ふ所</p> <p>5 内の人の心配さ介抱</p> <p>二、日常衛生について注意してゐる事柄 (既知事柄の發表と説話)</p> <p>食へ物、飲み物、おやつ、寝冷え、清潔、運動</p> <p>三、食物の時刻、分量、食物の好き嫌ひ</p> <p>四、身體検査</p> <p>1、身長、體重、胸圍、脊柱、耳、目、鼻、むしば</p> <p>2、衣服の着脱</p> <p>3、検査中の姿勢、位置</p> <p>4、計り方の見覺</p> <p>5、頭、顔、手、足のお友達さの比較</p> <p>型や量的方面の比較</p> <p>五、お友達や自身の顔の畫的表現</p> <p>六、運動場での遊び</p> <p>1、自由な遊び</p> <p>2、歩き方練習と遊戲</p>
	<p>○醫者に診察を受ける時の注意</p> <p>○親に對する感謝報恩の念の養成</p> <p>○衛生注意事項の行動化</p> <p>○腹八分を忘れぬ様に</p> <p>○食へ物の小言をいはぬ様に</p> <p>○グラフの見方の初歩指導</p> <p>○一人で衣服の始末をする様に</p> <p>○身長計、體重計の使ひ方を知らせる</p> <p>○右さ左の關係</p>
	<p>修</p> <p>タベモノニキ</p> <p>チツケヨ</p> <p>ヨオヤノオン</p> <p>ゲンキヨクアレ</p> <p>算</p> <p>長さの單位の唱へ方</p>

春の野原	
一、春の野の散歩、觀察	<p>1、櫻の花のトンネル</p> <p>2、花壇の花</p> <p>3、木の萌芽</p> <p>4、土手の上よりの全體的な眺め</p> <p>5、花見のお客さん</p> <p>二、お遊</p> <p>1、いろ／＼の草</p> <p>2、たくさんの鯉</p> <p>3、鉄を興へて鯉を集める</p> <p>三、お猿——面白い猿の動作</p> <p>四、印象深い點の繪畫表現又は文章表現</p> <p>五、櫻花の貼紙表現と教室の裝飾</p>
二、花つみと花束づくり、おし花、おし葉の作製	<p>○鑑賞的態度の養成</p> <p>○花を好み明るい氣分で暮す様に</p> <p>○鯉の數へ方</p> <p>○動物愛護の純情の育成</p> <p>○生活表現の着眼の指導</p> <p>○環境の美化に注意する様に</p>
三、ま、こ遊	<p>○色彩感より來る自然の美しさ</p> <p>○自然の觀察態度の養成</p> <p>○花の名の文字化</p> <p>○蒐集本能の満足</p> <p>○自然物による模様表現の初歩</p> <p>○ま、こ遊より算術生活へ</p> <p>算</p> <p>十以下の加減</p> <p>唱</p> <p>池の鯉さくら</p>
	<p>圖</p> <p>模様表現の初歩</p> <p>算</p> <p>十以下の加減</p>

月 七	月 六	月 五
水白お蟬夏七 濱濱まの夕 遊海益り虫祭 び水盆	私浦お田お水時金 島島たまじやくし の太取村耶の植氣屋計魚 村耶の村	私海竹わ私蜜お私 達の軍のらわの蜂ののから の学記のびののの家句だ 校念日子取り内家
月 二十	月 一十	月 十
ク年す冬せ私 リスのすごい スマはもん ス暮きり拂物	私おお總も取明運 ごもの菓の社み入治動 町城子祭ぢれ節會	白赤秋特國秋は輪毎 う種の科取ののののの さ遠山隊り果のころの ぎ足遊見遊物もげ動
	月 三	月 二
	曾白春陸あ羅 我國のこ軍ぶ祭 弟の梅し念記り 見へ日日出し	姫雪電一紀植烏節 路話本元木分 驛遊杉節市立 び

月 四	月	第一學期
天電濱水家私春 長車の宮源庭のの 節つ遠足地物家 こ足	月	第一學期
月 九	月	第二學期
種おお虫風 畜彼月ぼ 場岸見し	月	第二學期
月 一	月	第三學期
水扇仕郵大餅お ののの寒焼正 まま事便の入り月 ま	月	第三學期

尋常科第二學年
第二生活題目一覽表

- 三、自由な唱謡
1、鳩、靴が鳴る、兎さ龜など
2、兎さ龜のお話
4、既習唱歌の動作表現

○野原でのんびりさ唱ふ喜び

修
レケンキョクア
ナマケルナ

月	四	月
家庭生活題目	家庭の動物	生活題目
生活内容	<p>一、家庭にどんなものを飼つてゐるかの話し合ひ</p> <p>二、鶏と雛さについて</p> <p>1、學校の鶏の直観 いろ／＼な種類の鶏 餌の食べ方、水の飲み方 ささかき雌雄、可愛いひよこ</p> <p>2、鶏の役立ち方 トキをつくる 卵を産む 肉が食べられる</p> <p>3、可愛いひよこの連続的觀察</p> <p>4、讀本教材「ヒヨコ」の讀解</p> <p>5、卵の数、ひよこの数より數量方面へ開展</p> <p>6、唱歌「ヒヨコ」の練習</p> <p>7、連續觀察についての感想文</p> <p>三、猫について</p> <p>1、猫の名調べ</p> <p>2、猫の可愛さについての話し合ひ</p> <p>3、可愛さの話し合ひより讀本教材「うちの子れ」の讀解へ</p>	<p>第一學期</p>
指導の着眼	<p>○動物愛護の情を啓培する</p> <p>○親雞の情を充分讀取らせる</p> <p>○育て方と共に可愛さの表現に主力を注ぐ様に</p> <p>○行動化して發表する態度</p> <p>○韻文教材としての指導を充分に</p>	<p>各科教材との連絡</p>
算	<p>讀</p> <p>算</p> <p>讀</p> <p>ヒヨコ 二位數の加減 乗法の初歩</p>	<p>讀</p> <p>うちの子れ 平假名の收得</p>

水源地	<p>一、坊主町の水源地の直観</p> <p>1、機械室—モーターとポンプ</p> <p>2、淨水地</p> <p>3、吸上げられてより男山貯水池に行くまでの水の動き</p> <p>二、男山貯水池の直観</p> <p>1、貯水池の有様</p> <p>2、石段の數調べ</p> <p>3、山上よりの見晴し</p> <p>町や公園</p> <p>4、貯水池より家へ行くまで</p> <p>三、發展作業</p> <p>1、觀察點の記録</p> <p>圖示と説明</p> <p>2、水道の水と井戸の水とのちがひ</p>	<p>可愛い子猫の姿と可愛い少女の面影が躍如としてゐる所を讀み取らせる</p> <p>○浄水池のはたらきについて知らせる</p> <p>○男山まで水を揚げるわけについて知らせる</p>	<p>唱</p> <p>うちの子れ</p>
指導の着眼	<p>○場面が廣いから参考として平面圖や斷面を描いて説明の助けとなす</p> <p>○市街に上水道の設備の必要なこ</p>	<p>各科教材との連絡</p>	

濱の宮遠足	<p>買と温度</p> <p>3、お友達の内水道賃金調べ</p> <p>4、水道のおかけ</p> <p>5、水道の工作</p> <p>砂場で自由に分團學習をする</p>	さについて知らせる	
濱の宮へ遠足	<p>一、遠足前の學習</p> <p>1、昨年の遠足の想起話し合ひ</p> <p>2、電車に乗ってどう行くか 略地圖により</p> <p>3、乗り物についての注意</p> <p>4、持ち物についての用意</p> <p>5、内へのお知らせの手紙書き</p> <p>二、濱の宮へ遠足</p> <p>1、電車の停留所調べ</p> <p>2、途中の眺め</p> <p>3、濱の宮での遊び</p> <p>松露狩</p> <p>寶探し</p> <p>小競技會</p> <p>其他自由遊び</p> <p>三、發展作業</p> <p>1、電車、途中の景色、寶探し、お辨當等印象</p>	<p>○昨年のことを反省し今年によりよき遠足態度をつくる</p> <p>○略地圖の見方の指導</p> <p>○自身で要件を考へて手紙を書いて見る様に</p> <p>○遠足前の話し合ひが實行される様に</p> <p>○電車ごっこのすることを豫告しおきその積りで電車についての研究をなさせる</p> <p>○春の一日を仲よく愉快に送る様に</p> <p>○表現内容の指導と共に表現手法</p>	圖 遠足
電車ごっこ	<p>深い點の繪畫表現</p> <p>2、當日の楽しかったことの作文表現</p> <p>3、寶探しの寶比べ</p> <p>4、松露の數調べ</p> <p>5、電車地圖の作製——停車場と河原の模様</p> <p>6、遠足の連続式繪畫表現——分團作業</p> <p>一、遠足の際の電車について調べた事の話し合ひ</p> <p>1、電車の停留所の名前の數</p> <p>2、運轉手、車掌の活動</p> <p>3、乗客について</p> <p>4、座席椅子</p> <p>5、切符賣場と改札</p> <p>6、走る速さと要する時間</p> <p>二、電車ごっこの計劃</p> <p>1、必要なものについての話し合ひ</p> <p>電車、切符、切符賣場、はさみ、お金、運轉手、車掌、乗客等</p> <p>2、何を製作するか話し合ひ</p> <p>電車、切符、停留所、切符賣場、案内圖</p> <p>三、製作作業——分團作業</p> <p>1、電車の製作</p> <p>ボール紙で半立體的に</p>	<p>○電車ごっこの學習動機を惹起</p> <p>○電車の設備と便利さを知らせる</p> <p>○適當に數量方面へ誘展させる</p> <p>○案内地圖式に表現させる</p> <p>○電車ごっこの活動に差支へない様に用意する</p> <p>○簡単な製作方法の考案</p>	算 二位數の加減 乗法の初歩

天長節	
<p>一、天長節についての説話</p> <p>1、四大節について</p> <p>2、天皇様の御聖體について</p> <p>3、國旗を尊重すべきこと</p> <p>4、宮中の御儀式について</p>	<p>2、切符の賣場 ボール紙に窓をつけて立てる</p> <p>3、切符の用意 大きさを降りる停留所書き</p> <p>4、停留所作り 廊下、運動場の利用</p> <p>5、案内圖作り</p> <p>四、電車ごっこ</p> <p>1、各係員は位置につく</p> <p>2、案内圖を見て行先を定めて切符を買ふ</p> <p>3、改札口よりはさみを入れて賣つて出る</p> <p>4、合圖と發車</p> <p>5、下車——切符の検査</p> <p>6、交替して繰返す</p> <p>五、發展作業</p> <p>1、電車ごっこの作文繪畫表現</p> <p>2、電車賃より數量的生活への誘展</p>
<p>○國民として重要な祝日であることを知らせる</p> <p>○皇室に關しての敬語に注意する</p> <p>○國旗に關する知識と心得を整理する</p>	<p>○乗客が便利を感ずる様に工夫する</p> <p>○係員の活動を有機的に</p> <p>○行先を決定してお金を用意する様に</p> <p>○計算の敏速と確實さの要求度を高める</p> <p>○順番を待ち、秩序正しくなす態度をつくる</p> <p>○區別度の賃金の取扱方を知らせる</p>
修 カ テンノウヘイ	算 乗加より乗法 唱 デンシヤ

五	私のからだ
<p>二、國旗の製作</p> <p>1、大國旗の直観</p> <p>2、旗の縦横の關係と日の丸の大きさの關係を見る</p> <p>三、唱歌「君が代」、「天長節」の練習</p> <p>四、式の作法訓練</p> <p>1、講堂への行き方</p> <p>2、御眞影奉拜の際</p> <p>3、御勅語奉讀の際</p> <p>4、其他全般についての注意</p>	<p>一、身體検査</p> <p>1、身長、體重、胸圍の測定</p> <p>2、眼、耳、鼻、齒、咽喉、營養、脊柱の醫師診察</p> <p>二、發展作業</p> <p>1、昨年或は毎月の身體検査と比較グラフの作製</p> <p>2、お友達との身長、體重比較グラフの作製</p> <p>3、身長と胸圍の實際の長さをテープに作つて比較</p> <p>4、其他頭の周り、首の周り、腕の周りの實際とグラフ作製</p>
<p>○米尺の活用と長さの測り方練習</p> <p>○儀式の場合の訓練を深め敬虔的態度を養ふ</p>	<p>○兒童にも實測せしめ、計量器につづいての使用になれしめ、而も長さ重さの觀念を深めその唱へ方になれさせ</p> <p>○上手に診察を受ける態度</p> <p>○自身の發育状態をグラフ化して一目瞭然たらしめ發育の喜びを味はせる</p> <p>○實際の長さのテープを用ひて比較する</p> <p>○cm kg等の記號を知らせる</p> <p>○先づテープで測つてその長さを米尺で測る</p>
算 長さの實測 唱 君が代 天長節	算 長さを目方 修 カラダヲシヤ ウブニセヨ 算 三位數の比較 法

お節句	<p>5、グラフより事實問題構成へ</p> <p>一、お節句のお祝の既有経験の發表</p> <p>二、お節句のいはれについての説話 宋の傳説屈原の話 悪氣拂</p> <p>三、お節句の計劃と作業</p> <p>1、教室の飾りつけ</p> <p>2、武者人形、具足を飾る</p> <p>3、鯉のぼりをたてる</p> <p>4、幟もたてる</p> <p>5、鯉のぼりを畫用紙で作り吹流と一緒に女竹につける</p> <p>6、お菓子や柏餅を食べる</p> <p>7、内へ案内状を出す</p> <p>8、鯉の大きさを測る——説明圖をかく</p> <p>四、お節句の會</p> <p>お話 唱歌 朗讀 活動寫眞</p> <p>柏餅、お菓子の分配、會食</p> <p>鯉のぼり、背くらべ等のレコード鑑賞</p>	<p>○グラフの見方、問題構成</p> <p>○過去の経験により組織的に作業が生れて行く様に</p> <p>○説話は或は補充文として讀解せしめてもよい</p> <p>○一年生の學習よりも餘程作業的となる</p> <p>○教室の飾りつけも子供に工夫させ子供になさしめて子供らしくする</p> <p>○鯉のぼりをあげた威勢を味はせる</p> <p>○曲線初の修練と鯉のかき方</p> <p>○案内状の書き方指導</p> <p>○鯉の各部の名前を知らせるに共竹尺、巻尺の使用になれさせる</p> <p>○學級の親睦</p> <p>○復演による唱歌の練習徹底</p> <p>○會食の時の作法訓練</p> <p>○柏餅の数より數量生活へ</p>	算 長さの實測、記録、基数の基数倍、何十の基数倍、二倍数の加減
-----	---	---	------------------------------------

蜜蜂の家	<p>五、お節句の生活の表現</p> <p>繪文に 繪畫に 切貼に</p> <p>一、蜜蜂の家の直觀</p> <p>1、蜜蜂の活動状態について</p> <p>2、家の構造と形について</p> <p>3、群居生活團體規律について</p> <p>4、蜂の分業生活、共同生活についての説話</p> <p>5、女王についての話</p> <p>二、發展作業</p> <p>1、圖畫、作文的表現</p> <p>2、飼育地附近の立體的な工作表現</p> <p>分團作業</p> <p>パツク</p> <p>蜜蜂の家</p> <p>その附近の附屬物</p> <p>3、蜜蜂の用途調べ</p>	<p>○いろいろの姿の鯉のぼりを種々工夫表現させよ</p> <p>○蜜蜂の社會的規律的生活の實相について充分に指導する</p> <p>○表現作業を通して蜜蜂に對する親昵の感を深める</p> <p>○分團が各員が共働して生産的活動を營みその愉悅を體驗させる</p>	手 蜜蜂の家
私の内	<p>一、自分のお内での楽しみについての話し合ひ</p> <p>1、植えた草花の世話、手入れ</p> <p>どんな草花を世話してゐるか</p> <p>どんなに大きくなつてゐるか</p>	<p>○家庭生活の楽しいものであることを一層深く思はせる</p> <p>○繼續的に世話をする様、又發育日誌等を活用する</p>	

	<p>ごんな花が咲くのか ごんなに世話をするのか</p> <p>2、小鳥や雞の世話 小鳥や雞の種類、その数 産む卵の数、世話のしかた</p> <p>3、犬や兎の世話 その可愛さ、世話のしかた</p> <p>4、夕飯時の楽しみ 四方山話 おぢいさんやおばあさんのお話 讀本教材「ゆびのな」「かんがへもの」の 讀解 唱歌「おきあがりこぼし」の練習</p> <p>5、兄弟一所に遊ぶこと ごんなこさをして遊ぶか 兄さんの親切</p> <p>6、赤ちやんのお守 讀本教材「お花」の讀解 子守唄の鑑賞</p> <p>7、近所の友達との遊び</p> <p>二、發展 作業</p> <p>1、この話し合ひの中に適當に作文表現、繪畫 表現をなしこれを活用する</p>	<p>○園藝的な方面の趣味を深め生活 に奥行をつける</p> <p>○動物愛護の情を一層深める</p> <p>○内の人の活動の姿又は家畜のい ろ／＼な姿を粘土で表現させる のも面白い 細部は省略して立體のかたまり に注意して坐りよく作らせる</p> <p>○家庭の温情に充分浸らせる様に ○手足の指の研究へ進展しても面 白</p> <p>○平和な家庭の團樂さ兄弟の友 愛を感得せしめる</p>	<p>手 粘土表現</p> <p>讀 かゆびのな おきようがへもの 花</p> <p>修 カウカウ キヤウダイナ カヨクセヨ シンルイ</p> <p>唱 おきやがりこ ぼし、だるま ぼし、だるま トモダチニシ ンセツデアレ 人ノアヤマチ ヲルイスノメ ニシタガフナ</p>
--	---	--	--

第八節 中學年の學級經營

一、中學年教育の地位

言ふまでもなく教育は兒童の生命の連続的發展に伴つて全體的に連続的發展としての目的を遂行すべく營まれて行くものであらねばならぬ。中學年の教育、それは既にかうした連續的な發展過程に於ける中學年としての独自の立場に價値の中心目標を定めて個性的發展を企圖する所の教育を意味したものでなければならぬ、低學年の教育は遊戯的生活の善導、全一的生活の擴張としての教育であるならば中學年の教育は作業的生活の指導であり分化的生活の擴充としての教育であつて、やがて高學年の自律的合理的生活の指導、生活深化の教育へと發展する過渡期の教育として重要な地位を占めるものである。即ち低學年の兒童生活は遊戯を遊戯として表現する生活であつた。未分化的な全一生活を營んでゐたのであつた。けれどもこの遊戯的生活の時代こそ文化價値の發展の基礎をなすものであつて謂はゞすべての價値の總合的體験の時代であつたのである。これが中學年に進めばその兒童生活の發達から目的々な生活を志向する様になり、分化した價値それ自體の本質に向つて伸展し生活する時代で、單なる遊戯的生活から進んで目的々な活動への過渡期であり分化的發展生活の時代である。かくして生活は外形的より内省的へ、直觀的より稍々論理的へ、本能的より道德的へと次第に進展して行くものである。殊に社會性の發現による共同社會としての生活訓練を一層深める時期として重要な意味を有するものである。世には往々にして中學年の教育を輕視し、甚だしきは兒童自身も自己の地位を自覺せずして自己を輕視するものさへあることがあるが、これは以上の如き學年の地位を知れば決して軽い學年ではなくして寧ろ擴充期の教育とし、準備期の教育として重要な地位にあることを自覺することであらう。

二、中學年兒童心身の發達形態

(一) 精神形態

1 自我の觀念が發達して自然的生活の中にも餘程自主的自律的な生活が萌えて来る。即ち中學年時代となれば彼等は生存慾を益々強く發揮しようとして来るものである。言ふまでもなく人間は生きねばならぬものであるがこの時代の兒童は各自その生存權の王者たるべく生きる方向と如何に生くべきかといふことを幼いながらも考へて来るのである。けれどもその實際に於ては未だ思慮性が充分に發達せず動々もすると性急になり易く従つて無理と誤りが自然多いものである。併し概して自分で考へ自力によつて爲さんとする傾向が生じ反省的な生活態度から自己が自己に働きかけ自己が自己を評價する様になる。一面に於ては學校生活に於ける學年的地位も進んで来たのであるからこの自覺から漸次自律的となり學習方面に於ては追々自學自習の態度も濃厚となり訓練方面に於ては自治的の傾向も現はれて来るものであるから學級共同學習或は自治會、役員制等はこれの意味に於て尊重される時代である。

2 分化的に生活は發展する時代である。

低學年の未分化的綜合的な生活から漸次その生活は分化生活へと流れてこの傾向は漸次に濃厚になつて行く。主觀と客觀の意識が明瞭となり、次第に多様の客觀を取り入れて主觀を充實せしめようとする。又遊戯的生活の域を脱して目的と手段とを區別して意識し、或は正邪善惡を對照とする道德生活をなし、或は科學的生活、藝術的生活、宗教的生活と夫々獨自の立場で之をなし教科指導も有意義となるものであるが、この様に渾一未分化の生活から多様な分化的發展相を現はす時代である。

3 發動的作業的へと生活は發展する。

低學年に於ては所謂本能的衝動的な生活をなし自發的な發動的な活動は何といつても幼稚であつて謂はゞ受動的他律的な生活の時代であつたが中學年に於ては餘程心身の諸勢力が内に充實し而も有意的發動的に活動する様な生活態度が現はれて来る。従つてその活動は遊戯に於ける如く單に衝動的に自然的に生活するに止らず内部に兒童相應の目的を持ち豊富なる心意活動によつて積極的に發動的に活動するに至る。即ち目的と手段が分離し活動そのものには勿論興味を有するが結果に就ても相當の關心を持つ様になるのである。

殊に優良兒はこの傾向強く、學級内に於ては全兒の先驅者となり指導者となるものである。即ちこれ等の兒童の力によつて學習氣分を濃厚にし學級の發動的學習態度を誘導するものであるからこの點に留意して學級内に於ける個性的な性能を充分發揮せしめると共に學級全體がかうした學習態度へと志向して活動を營む様之を利用して學級社會としての活動が夫々の立場に於て充分になされる様留意し之を助成することに努めなければならぬ。

4 努力的な生活へと發展する。

低學年の生活は興味本位の生活であり興味ある遊戯的生活によつて初めてその生活は充實されて来たのであつた。従つて活動それ自身が目的でその生活は只興味によつて營まれ努力的な所はあまり見受けられなかつたものである。併しその生活は分化的に發展して来た。この分化的生活を充分に擴充進展せしめようとするれば、そこにはその目的のために結果のために努力しなければならぬ。かくして目的到達の愉悅を體驗して喜びの生活となり満足の生活となつて更に彼等は自力に對する興味を感じ漸進的にその生活は伸展して行くものである。

5 稍々現實的客觀的生活となる。

低學年に於けるが如き空想的想像作用は漸次變じて懷疑と推理によつて現實的客觀的となる。即ち今まで満足して喜んだものゝ中からも不合理を發見し、理由をさぐり、合理的であることを要求して来るものである。従つて理想とする人物も架

空的な人物よりも現実的な英雄偉人を崇拜する様になる。

又反省なり判断なりの標準も漸次自己中心的より社会的な規範客観的な法則にも理解を持つ様になり共同社会としての學校生活上の諸規則も遵守すべきものであるとの意識は相當強くなつて来るものである。

6 稍々社会的協同的となる。

個人的主義的な生活態度から漸次社会的な協同的な生活態度へと進化して来る。即ちこれは社会的團體的の意識に漸次目覺めて来たわけで、漸く自己以外の境界をも考へねばならぬことを悟り自己の主張に或折衝をつけるに至つたものである。かくして我が學級といふ意識が強くなり、更にその學級社会の中にリーダーが現はれて級風の核心となる様になる。

この傾向を善導して自治的訓練をなし學級の共同社会生活なるもの、眞の意義を了解せしめその共同生活の喜びと満足とを味はしめて一層社会性の發達助成に努めなければならぬ。

7 機械的記憶作用は發達し模倣は餘程目的性を帯びて来る。

一般に記憶作用は兒童期に於ては強いものであるが、この時代には特に發達するものである。従つてこの時代に記憶の練成をすると共に目的性を帯びて来た模倣とによつてこれを基礎として自己創造への陶冶にまで進まねばならぬ。

8 男女の性別的傾向が現はれる。

この時代に至つて著しく女子の發育が男子より早くなり時に男子を凌ぐことあり、そして成熟も男子より早い者もある。精神的にも又遊戯趣味、言語等にも性別的な傾向が漸次濃厚になつて来る。

(二) 身體狀態

全學年を通じて本學年時代が最も身體的活動の旺盛な時代であるといへる。たとへ雨天の場合であらうと靜かに教室に居ることは出來ず、暑い時でも寒い時でも平氣で運動に熱中し、その活動は甚だ旺盛である。よく黨を組んで身體的勝負をな

すことを好むものである。

この活潑なる身體的活動と相關的に全身の健康は増進し身長、體重共に増加し抵抗力は強くなり低學年の不均齊なる状態は漸次的に發育する様になる。

この時代に於てはすべての方面に亘つて積極的な指導方法により彼等の旺盛なる活動を善導して漸次これを價值的に發展せしめなければならぬ。

三、中學年學級經營の根本方針

今日の學校經營は既に述べた通り學校長のみによつてなされるものでなく學校職員が相依り相扶けてその經營に當るべきであるが學級經營に於ても之と同様に教師のみの計劃運営によるべきものでなく教師と兒童の協同經營によるべきものであり相互助成的發展成長への生活社会でなければならぬ。殊に本學年の時代になれば相當目的性は發達し計劃實行の態度は培はれ反省的態度も萌えて来るものであるからこの際に於て學級が如何なるものであるかを了解せしめ學級兒童が協同助力によつて己が學級を出來得る限り發展擴充せんとする慾求を起さしめ之が實行をなさしめることが今日に於ける眞の學級經營の態度でなければならぬ。

(一) 學級個性を意識せしめ之を伸展せしめる。

學級が一つの人為的生活であり而もその構成要素たる兒童及教師が各々異なつた個性の所有者であるとしたならばそれ等の各個性間に於ける相互交渉關聯によつてそこに自ら綜合せられ創造される所の學級個性なるものがなければならぬ。この學級個性なるものは外から形成されるものでなくして自然に内より形成されて行くものであつて、この學級個性は勿論低學年時代から顯現せしむべく努力してゐるものであるが未だ個性色が明瞭でなかつたのである。併し本學年時代より漸次之が個性色を帯びて来るものである。

故に自己の學級の學級の姿態を充分に知悉せしめて學級に對しこの意識を高め愛着を深めてこゝに一つの精神的統一體としての學級が形成され、それが進展して行く様留意すべきである。

而してこの學級個性の形成、級風の樹立に當つては學級兒童の中心人物の活動の如何によることが多い。即ち級長、副級長その他の役員性格、人物の如何によつて教師の希求する如き級風が形成されるや否やが較れる。故に學級内の中心人物の善導利用に努めて教師の意圖が徹底する様留意し以て學級個性の伸展、級風の樹立に努むべきである。

(二) 分化的發展生活の指導に努める。

低學年の未分化的綜合的生活は漸次分化して多様に發展し、その範圍が擴大されたのみならず更に發展力も漸次培はれて來たのであるからこの際に彼等の發動的態度、自力的傾向を助成し利用して充分なる學習活動をなさしめて發展力を更に一層旺盛ならしめて自己を充實せしめその成長を圖る様留意せねばならぬ。

(三) 發動的自主的學習態度の助成に努める。

本學年は低學年の教育の基礎の上に立つて文化收得の能力を陶冶し高學年に分化的生活の基礎を確立すべき學習方面から見てその過渡期として重要な位置を占める學年である。吾々の念願する所は彼等に内在せる力によつて自己の價值生活を創造して行くことである。幸ひ本學年はすべてが自覺への轉換期であるから本當の自我意識による自覺に基づく眞の自主的學習を發動的に營ませ善良なる態度を養成する様特に留意し自力すべきである。

(四) 作業的體驗指導を重視する。

低學年の綜合的生活時代より發展して多様に分化したる結果、教育内容は擴充されて間接經營も漸次重んぜられなければならぬのであるが未だ兒童は具體的直觀的傾向を多分に帯びてゐるから出來得るだけ直觀的に之を取扱ひ而もすべての活動を有目的作業的ならしめて以て體驗生活を一層深めその發展を企圖する様留意せねばならぬ。

(五) 自治的協同的精神を涵養する。

漸次自主的傾向を帯び一面社會性の萌芽は伸展して行く本學年に於ては周到なる指導の下に學級自治會を組織し、或は協同的に學習作業又は運動等を行はしめ各人が學級共同社會に於て共存組織の一員として夫々の立場に於て貢獻せしめ、かくして共同生活を通して眞の自己意識を深めると共に共同社會生活の意識を伸展せしめ學級の共同社會生活に於て自他共によりよき喜びの生活を營むの精神を體得せしめなければならぬ。

(六) 個別的指導の徹底を圖り個性的活動を有効ならしめる。

本學年に於ては漸次個性の姿は濃厚となり教育内容の程度が高まるにつれてこの能力程度の差も次第に甚しくなつて來るものであるから出來るだけその指導徹底に努めるには能力適應の個別的指導を行はねばならぬ。従つて兒童各人が個性的に受容する様な學習態度を訓練し一齊的な學習指導の中にもそうした個別的指導が充分に生きる様留意すると共に各人の性能を出來得る限り發揮せしめて之を學級の共同生活の中に於て充分なる發展を圖る様留意せねばならぬ。

(七) 身體的方面の良習慣を養ふ。

既に述べた如く本學年は身體的活動の最も旺盛な時代であつて、従つて身體が餘程安定し抵抗力も増すから消極的部分に加へて更に積極的部分を漸次濃厚にしてその活動性の善導と鍛錬に努めて高學年の生活に堪え得る様な強健なる身體を作り上げなければならぬ。それには出來るだけ惡戯の機會を少なからしめ登山、遠足を多くしてそうした方面の趣味を養ひ、運動遊戯の獎勵をして自覺によつて之をなす様な態度を作りなどして身體的活動性を善導しその良習慣を養ふことに留意せねばならぬ。

第九節 高學年學級經營

一、高學年教育の地位

之の頃は兒童身心の發達より見ても所謂小さな大人としてまとまつた感をいだかされ、然もやがて第二の誕生ともいはれる青春期の眞なる自己を發見し創造する前徴を含んだ時であり、教育制度の上からすれば義務教育の完成期で、又職業的陶冶への意味も重要な時である。即ち小學校教育の完成と人間生活の端緒を意味するものとして重要である。

二、高學年兒童の心身發達形態

この頃の兒童は生後十年に亘る素質と環境と教育との一先づ綜合統一された人格形態として完成されやうとし、全てが道徳的なるものとなる。その特質を浮彫すれば

(一) 精神形態

- 1 自覺的反省的批判的となること。
自己意識が明瞭となり本質的なものをみとめ又は知らんとする要求が強くとして生活が自覺的反省的自己批判的となり責任を以て事を爲すに到る。
- 2 合理的現實的生活へと展進する。
伸び又培れた理知はいよ／＼其の力を發揮して幻想の國や夢の境を脱けて全てを合理的、科學的に解釋し處理しやうとし、個物の内に普遍の原理を見、又特殊の内に神秘の眞理を見出さんとするに到る。
- 3 自律的協同的生活態度が顯明になる。

社會本能の發現、社會意識の發達はほゞその頂點に近づき共同社會に於ける自己の地位と使命を漸次に自覺し、自らの生活を社會的ならしめると共に、に又一定の目的利益を中心として結合する目的(利益)社會的なるものにも長じ一人にし數個の利益社會に同時に屬しつゝ自己の本質を發揮し使命を遂行するに到る。

4 民族的、國民的自覺と奮奮を惠まれる。

種族得存の本能的漸進的發現としてのこの頃は價值的に眺めるとき眞に個人性の根底に先在する民族的なるものゝ顯現確立の時期である。日本人たるの自覺と誇りはこゝに發生し日本人として爲すべき必然への要求はこゝに自己自身へ轉廻され、當爲としての意味さへを有つやうになる。

5 個性に根ざす職業意識が芽生へて来る。

夢想的な職業人とし無意識的職業選擇及陶冶としての意味を有つ職業性より漸次に自己の内に職業に對する性格的好みと理想到達への手段過程への企圖さへを有つ様になり、卒業後の自己の進路が常に悩みとなり考へられることゝなる。

6 男女性別が漸次顯著になりエロスなる原理が働く。

男子はいよ／＼冒險的積極的になり剛毅果敢となり、女子は益々溫和、貞淑、同情心にあつく優雅になり来る。然していよ／＼男女両性間に必然に働くエロスがその力を振ひ、之を巧みに用ふれば各人の生活の飛躍と人格の改態をまで來すも、不幸誤用し又は悪化すれば、急に罪惡を重ね墮落に走り頽廢をことゝし遂には生命をもたしめるに到の前徴さへ表れはじめ。

(二) 身體狀態

第二次的なる男女の特性が顯著に表はれ、特に女兒は男兒よりも一、二年速に女になりかける。この頃は第二充實期に入り骨格及筋肉組織の發達著しく強度と抵抗力をまし、耐久力や調齊力も發達し走力、投力、巧緻性もすゝみ、頭腦もほゞ大

人に近くなる。されど青春期に入ればこの調和均齊もやぶれ非常の不平均部分的の發達を來し抵抗力弱く脆く最も身體的にも危険の時となる。

三、高學年學級經營の根本方針

本學年の小學校教育に於ける地位及び身心の發達形態より考へて、教育の中心的對象を兒童の内なる民族我にをき、教育の理想と忠良有爲なる日本國民たるの人格性に定め學級社會をして之れが具體的綜合體現への道場たらしめる様に經營せねばならぬ。これを核心として次の如き方針が派生し來る。

(一) 政治、經濟、軍事等の國家及社會的認識を高め國際間に於ける祖國の世界的地位と日本人たるの生活原理を確立せしめねばならぬ。

兒童の合理的批判的なる生活傾向を顧みて、今迄の如く單に情感的、盲目的に國家及社會的認識を與ふる心とせしめず、進んで明確なイデオロギーとして日本の政治、經濟、祖國の生活形態を認識理解を高めて國際的背景に於いて活躍すべき日本のなる生活態度の教養につとめること。

(二) 自立自爲的態度と能力を確立し人格陶冶へと自らいそしめしめること。

自發的自爲性を原理になし來た學習、訓練、體育等の各生活領域にわたり、いよくそれを確立鞏固にし眞に分業後も自立自爲的に個性を伸長し人格と育成するにつとめる様傾向づけねばならぬ。

(三) 自治的共同訓練を重視し公民的陶冶につとめる。

其の旺盛な自覺的、批判的態度と共同社會性に基き自治共同の完全に行はるゝ學級社會を形成し、すゝんで學校社會にも指導する様にせねばならぬ。典型的共同社會を生活することによつて公民的陶冶は爲さるべきである。

(四) 職業性を啓培し正しき職業指導をなすこと。

各自の個性、素質、環境等を顧慮して自己に適當なる職業を發見せしめ、國家社會に於ける職業の意味と機能を明にし、ケルセンシユクタイナーの所謂職業の倫理化をはかり公民的中核をこの内に見出さしむべきこと。

(五) 勤勞作業を重視し實踐力ある人間たらしむ。

この頃の理智の發達の著しきは往々にして全てに亘り理論の巧妙な實行の伴はぬものとなしやうい。然も今日の社會が要求するものは勞作を愛好し實行に長ずるものである。故につとめて各兒童の魂の深核にふれ、自覺的なるを以て勞作的實行的生活能力と態度を培養せねばならぬ。

(六) 體育を重視し鍛鍊的ならしめること。

この頃の兒童は一面養護に留意すると共に各兒童の身體的個性を熟知して、それに應じ鍛鍊の意味を附加し、特に大自然を背景として生活せし民族の原型を思はすとき雄大、悠久な體育的施設(例、登山、水泳、天幕生活、戲戰、遠足、旅行、休暇、緊落等)を盛にして潑刺として剛健なる精神力を養成せねばならぬ。

(七) 宗教的敬虔の生活態度と公正なる禮儀の教養につとめる。

此頃は自己自身への道德的なまとまりと、社會的な各自の地位と責務の自覺とはこゝに禮儀のとのつた道德性の生活として表はされねばならぬ。又漸く萌す回心の現象は神秘なるものへの轉入とし深刻なるものへの憧憬として表はれ宗教的敬虔的な生活として陶冶されねばならぬ。

第十節 高等科の學級經營

一、高等科教育の地位

一國文化の向上發達を希ひ、國運の隆盛を期する爲には一に國民教化の水準線を高めることが肝要である。それが爲には中等以上の教育の充實を圖ることは固より必要なことであるが、更に必要なのはかゝる少數階級の教育よりも、國民の過半を占むる民衆教育を振作徹底せしむるにある。由來國家は少數の知識階級のみ依て保持されるべきものでなく、國民全部の力に依つて負擔されるべきものであるから、近時何れの國を問はず一般に民衆教育に重點を置き、之に全幅の努力を傾けて居る現状である。此の見地よりすれば吾國に於ける尋常科卒業生中の約五割七分六厘が入學するといふ高等小學教育は正に國民の過半を占むる民衆教育といふべく、その普及徹底の如何は直ちに我が國民の發展向上に大なる影響を與へるものである。殊に普選並に陪審法實施、或は思想的に經濟的に動搖甚しき今日、社會問題の解決、政治の革新にも緊密なる關係を持つものである。これが爲には高等小學科教育をして一層其の程度を高め内容を改善して努めて實際的ならしむると共に、一面入學を勧誘して成べく多數の兒童を收容する事が國家の要求にも協ひ改正令の趣意にも副ふ所以である。

然るに高等小學科は從來宛も餘細工の如く尋常小學科に於ける基礎學校の延長か、或は師範學校、各種中等學校への中間學校としてのみ存在し、甚しきは小學校の瘤として殆ど無用の長物視されて最も重要なべき最初の完成學校としての立場を輕視され來つたかの觀がある。故に吾々は完成教育としての高等小學科の負ふべき任務を列擧しその使命を再吟味する必要がある。

- 1 尋常小學校に於ける過去六ヶ年の教育に纏めをつけると共に、更に程度を高めて正規の學校教育の最後の磨きをかけること。
- 2 各種中等學校へ連絡する中間學校てふ立場を斥け、それに依つて來るべき準備教育の弊害を除去し、職業的陶冶を漸次中心としつゝ一般的陶冶を施し高等小學校教育の眞使命として完成教育の正道を精進すること。
- 3 地方自治制を圓滑ならしめ、生産を獎勵して地方の疲弊を救ふことは刻下の急務である。やがて社會に出で、地方の中堅たるべき此期兒童の教育に於ては實際的の公民的陶冶を重んじ、特に卒業後の進路に就いて適切なる指導をなすこと。
- 4 實業補習學校（豫科的性質を有する前期を除く）青年訓練所は高等小學校に連絡する施設なるを以て其他の社會教育施設と共に之等に對し豫め理解を與へこれが基礎を確立すべきこと。
- 5 終局學校の立場より且つ兒童心身發達の程度より眺めてこの期の教育に於ては特に自己教育（自己修養）を尊び價值ある知識の分量を多く授けると共に進んで研究修養を持続せんとする精神と力を養ふべきこと。

以上の各項に留意して最も適切有効なる教育を實施し、よくその理想を實現するに至れば、これこそ現在の高等小學校をよりよく生かす所以であり、總てはそれが將來の社會生活、國家生活に對する眞の準備となるのである。

更に附加すべき問題は義務教育年限の延長を圓滑ならしめ、中等學校入學難を緩和するといふことである。國民一般の文化と向學心の進むに従ひ中等學校入學志望者も激増し義務年限も八ヶ年に延長されると思惟するが前者については充分に自己の體力、能力、資力を顧みる暇なく盲動的に中等學校に向つて中途退學を餘儀なくされて何等の職業的指導も公民的陶冶も受けずして社會に出されて行く現状にあるのでこれを救済する道は一に高等小學校の内容を改善して此等不健全なる分子をして中等學校に向はしむるよりも寧ろ高等科に收容し最も有意義なる教育を施すの外はない。斯て中等學校入學難を緩和し準備教育の弊も自ら除かれるのである。後者については義務教育を延長して八ヶ年とするか六ヶ年の基礎教育の上に二ヶ年の高等科を義務とするかは議論さるゝ問題であるが何れ遠からず延長を見ると思ふ。斯る時に當つて高等小學校教育にし

て其の使命のある所に従ひ普及（量的）と徹底（質的）の實を擧げんか、よし未だ法令の上では延長されずとも、其の結果に於いては何等異なる所なく、寧ろ有力なる延長の準備なることを失はない。

二、高等科兒童の心身發達形態

(一) 精神型態

1 自覺的、自律的に生活する

義務教育を終り更に一段高き國民普通教育を受くるといふ心持に於て尋常科とは亦異つた自覺を持つことになる。高等科生の中には或は中等學校の選抜に漏れた者で更に考查に應ぜんとするものもあり、師範、農、工等の學校を志すもの等種々あれど、何れにしても自己の進路に就ては自己の境遇、力量を考へ可成に現實的な強き自覺を持つてゐる。それだけ彼等の生活には緊張味が加はり、自重心があり、自律的な點が多く見られる譯である。修養日誌をつけるとか勉學時間表を作製するといふ風なことを自身にてなし、學問修養にいそしむ傾向を生ず。

一方小學校に於ける最高學年としての自覺強く、學校全體の訓練緊張弛緩は懸つて吾等の責任にありとの念を以てよく風紀係、看護係等の勤務に服し、又下級生の保護指導に當る。教師の簡單なる指示はよく右の行動をなさしめる。

2 思索的、合理的に事に處する

思考力は他の精神作用の發達と相俟つて一段の發達をなし、漸次完全、明確、適合の度を加へ、純粹形式的な論理的思考にも堪へ得る様になる。従つて社會的事象の考察は時に偏することあるも相當に合理的、體系的、多方的となり、想像生活に於ても現實性を強く帯び彼等の理想にする處も單なる英雄豪傑を崇拜するといふのでなく、自己の力量、境遇等を考慮して實現の可能性あるものを憧憬するに至り、其の選擇の標準も外面的の事よりも寧ろ内面的に深く、漸次知

的、美的、道德的になり、而も自己の實踐上の直接模範とするに足る人物を渴仰するに至る。

3 一層社會的、協同的に活動する

小學校に於ける最上級生としての自覺からして學校全體といふ仕事が可なり彼等の頭を左右し、又一面一般社會の事象にも相當の經驗を得、教科目に於ても實業科が特設さ、れ公民的の要素が多くなる爲彼等の社會意識は可成に擴大されて協同性が強く、運動競技に於ても團體的、協同的のものが好まれる。社會生活の意義、理解、協同の原理等についても相當の理解を持つやうになり、進んで其の社會のために獻身的に行動せんとする傾向を見ることが出来る。

4 個性が益々明になる

前期に引續き價值意識は動搖彷徨し試練をなすのであるが、或中必的價值意識が他の諸活動を統一して人格的個性なるものを形成する傾向は稍著しく現はれ、所謂「肌」なるものを漸次に顯現するに至る。この傾向は學科の好惡、理想か趣味、嗜好、行動の形式、物事の考へ方等の上に現はれる。個性の漸明と共に一方身體的遺傳的特質も現はれてくる。斯く人格的個性の顯現について云爲するもこれ等は極めて初歩のことであつて、眞の個性形成は二十歳前後であるから早くから形式を見定めて相應の指導をなすといふことは餘りに早く固型せしめて將來を害はぬとも限らぬから充分考察をなし正しき個性の育成につとむべきである。

5 男女の特性顯著になる

この期の兒童は大體に於て青春前に相當する。前述の如く一面にはよほど自覺的、自律的となるが、又他の一面には所謂精神生活の嵐の時期にて動搖を來し、殊に感情生活、意志生活にムラを生ずる時期である。即ち一種の不安と不快とを感じ、何となくやるせない淋しさを感じ時に反抗的氣分を起し粗暴、不規律を生ずる様なことがある。

男子の聲變り、女子の月經が現はれ性的に發育すること著し、男子は勇壯活潑に男子らしく、女子は殊に羞恥の心強く

(二) 身體狀態

身長は急激に伸びて平衡を破り、運動は無器用となる。前期に引続き身長、體重、胸圍共によく發育し、殊に身長に於ては其の著しきを見る。此發育に伴ふて各機關の働きにも變化を來し、その活動に伴ふ感情、感覺にも變化を來す。血行系統特に心臓と血管との量的關係に變化を來し、筋肉運動の統制力一時減退し運動は一時拙劣となる。發情期に入つたものは内外の生殖器及副器の發育急激に増大し、爲に男女の特性明瞭となり、男子の聲變り、女子の月經を見ること前述の如くである。

- 1 第二伸長期に入る。
- 2 身長に比し筋肉の發育不充分にして心臓の力も弱く運動に對する持続力乏し。
- 3 筋肉各部の成長不均齊にして調齊力稍減少する。
- 4 個性的發達をなし遺傳的體質明かになる。
- 5 男子とも生理的に大なる變化を來し特に女兒は著しい。

三、高等科學級經營の根本方針

(一) 自己教育の態度養成。

尋常科に於ける自覺的態度を一層深化し練成して自ら修養に努力精進する所謂自己教育の態度と力とを養成する。

(二) 教育内容の實際化と職業的陶冶及職業的指導の重視。

郷土の實情に立脚し自己活動による作業を尊重して實生活に即せる教育を施し實業科を中心として職業的陶冶を徹底せしめ愛職勤勞の精神を養ひ個性に應じて適切有効なる職業指導をなす。殊に農村青年への指導を重視し、公民訓練、職

業陶冶によつて將來如何なる青年會を組織し、如何なる村會にすればよいかといふ抱負を持たせる。

(三) 精神修養の深化と國家的公民的陶冶の重視。

偏知唯物主義の弊を矯め情意を陶冶し敬虔感謝の念を培つて圓滿なる人格を育成し、國體觀念を確立し、剛健なる國民精神を涵養し、國家の進展に貢獻する有爲の資質を涵養する。

(四) 社會的、共同的精神の徹底。

尋常科に於て養成せる社會的共同的精神を一層擴張して校風作興の中心たらしめ、各種の機會と施設とに依つて自治、共同、公共奉仕の體驗を深め、個人と社會部分と全體との有機的一體觀に徹せしむ。

(五) 個性尊重と男女特性の考慮。

高等科に於ては心身の變化著しく、男女の特性顯著となり、個性も顯明するので自己の身體的、精神的特質を自覺せしめ個々に應ずる研修、保健の途を案出せしめ適切なる個別的取扱をなす。

第十二章 生活共同社會學校と家庭

第一節 生活共同社會學校の原型としての家庭

家庭が教育上如何に重要なものであるかは此處に贅言を連ねるまでもない。我々は本節に於てはかかる重大な意味を持つ家庭が、生活共同社會學校の原型として如何様に存在し、如何にあらねばならぬかを明かにするに止める。

家庭に於ける家族は血縁によつて結ばれ、精神生活を共にして相共に泣き悲しみ、喜び歌ふことの外に、共に食し、共に

寢し、共に勞作することによつて相互に慰め合ひ勵み合ふ。即ち家庭に於ては家庭各員の一言一行が常に全家族の現實の生活と密接に相關聯して之と離れることが許されない。而も家族各員は、その血縁の故に、己れのすべてを家族に投出して他と共に働き語るのであるから、其處に生ずる相互交渉は全人間的であり、又純人間的であると言へる。此處には學校生活の如き精神的活動の陶冶を意識的方法的に爲さんとするが如き理想性はなく、さりとして一定の目的や利益の爲めに結合する利益社會の如き現實性もない。いはゞ家庭はこれら理想社會及現實社會以前のものと、それらの原型とも言はるべきものであつて、各要素が未だ分化の域に至らず全體の中に極めて漠然たる姿で存在してゐるのである。即ち家庭にあつては自然と文化肉體と精神、現實と理想とが互にからみ合ひ乍ら一つの統一ある全體——それは極めて不合理なるものをその中核に存してゐるのであるが——として現前してゐる。

惟ふに精神が精神として自己の姿を明瞭に表現する時には、ともすれば肉體は輕んじられ疎んぜられるのが常である。何故なら人間は精神に生きることを本懐とし、精神の自由に奉仕するが如き身體を要求して、一朝有事に際しては之れを犠牲にし以て精神に生きることを冀ふからである。之れに反して、人間の自然生活がそのまゝに肯定せられる時は、人間は最早人間に非ずして單なる動物に墮し、何等精神的なるものをも現前せしめないであらう。然るに家庭に於ては、この精神と自然、理性と本能、感情と感覺、意志と衝動が渾然たる一體をなして融化し、自然、本能、感覺、衝動は夫々精神、理性、感情、意志に純化せられて、より高められてゐる。故に家庭に於ける親子、夫婦、兄弟姉妹の衝動的、本能的な生活も他動物のそれとは全くその趣を異にし、單なる自然が淨化せられて高き人格に發展するといふ一つの働きを有つてゐる。我々は此の點に全人間的交渉が有つ教育性を認め、かゝる全人間的交渉が家庭に於ては極めて自然に爲されてゐることを看取するに困難を感じないのである。而もかゝる全人間的交渉が言葉の最も正しき意味に於て爲される時、それは内的な本質的な關聯交渉を豫想してゐる。蓋し全人間的交渉とは外面的な皮相的な交渉に對する言葉であるからである。

家庭に於けるかゝる全人間的交渉と内的關聯の無意識的なる教育性こそ生活共同社會學校がその理想とする原型である。然るに現今に於ては、生産關係の變動による社會機構の變化は家族員相互のかゝる美はしき交渉關聯を切斷し、著しくその教育性を減殺しつゝある。我々は無意識的に及ばざるゝ共同社會の影響の重量性を思ひ、全人間的交渉と内的關聯の可能性を強めねばならぬ。

第二節 生活共同社會學校と家庭の連絡の實際

今日の家庭が漸次に表はれ來る利益社會的なる社會機構のために、その共同社會的の原型性さへも破壊されつゝあるとはいへ、未だそれは唯一の残された人類の理想社會型態である。かくの如き共同社會を出でてはじめて學校に入り來た兒童は、おそらくそこに生活の激變があり、價値の顛落があつて、その身心的生活は異常の緊張と驚異に侵はれるであらう。こゝに於いても今日の如き利益社會化する學校は生活共同社會に迄改態されねばならず、特に低學年の教育が吾等の所謂全體生活指導の如き姿に於いて營まれなければならぬ理由を見出す。このことは單に低學年にとゞまるべきでなくして、各種形式を通じて學校の家庭化が試みられねばならぬ。然し愈々生活共同社會學校の理念の下に經營されたる學校に在りては、學校が兒童の生活の場所であり、共同社會である限り、教育の對象は單に所謂學校時のみ止まるものでなくて學校の教育力は家庭の隅々までも及び、兒童の行住坐臥の奈邊にも教師や學友との眞實なる共同社會生活が浸潤し、學校精神が充滿しつゝある所謂教育の全日性を示さねばならぬ。例へば、家庭に於ける兒童の睡眠、食事、勉學、作業、遊戲、娛樂等の全てが單に親の氣儘によつて決定さるべきなくして、教師の適切なる忠言と、示教の下になさるが如きこれである。

他面學校自身もその餘りに利益社會的なるものに、家庭的雰圍氣を攝取するのみにとゞめず、更にすゝんで家庭を學校教育の内にとり入れ、或は精神的、教科的に父兄等の其の道の達人を乞ふて講演、助力、製作、範示等の型式として直接兒童

教養の機会に奉仕せしめ、或は唯物的、經濟的補助を考へて學校施設の不備を充足する等の犠牲を敢て拂ふの態度たらしめねばならぬ。かくして理念的にも、具體的にも、餘りに學校と家庭、教師と父兄等が間絶し、或は相接しあつて却つて不統一、不信頼に陥らしむが如きことがあつてはならぬ。こゝに學校と家庭とも依然敬愛威信の教育精神、清明心なる原本的な日本精靈によつて結合せられ、存在せねばならぬ。かくの如き理念を實現する方途は種々あらうが、今の所本校としてはこれが爲次の如きものを施設し、着々その實績をあげんことを期してゐる。

一、父兄教育會 毎年一回又は臨時に總會を開き、學校と家庭の連絡を圖る。
二、父兄懇話會 每學期一回父兄懇話會（父兄會・母姉會）を開き、兒童教育に關し相互に意見交換、意志の疏通を圖る。

三、家庭訪問 每學期一回以上兒童の家庭を訪問し、家庭に於ける生活狀況、家庭教育及び環境調査をなす。

四、父兄の學校參觀 隨時父兄母姉の學校參觀を歓迎し、兒童の學校生活を紹介し、父兄（母姉）の理解を助け、或は意見交換をなし、成績品を展覽して参考に供す。

五、機關冊子の發行 學校と家庭の連絡を圓滑緊密ならしめるために「學校と家庭—雜誌型」及「附屬校報—新聞型」と稱する冊子を年八回以上發刊し、學校並に舊職員の情報、職員感想意見、兒童の綴方作品、父兄の希望要求、意見及び父兄教育會の事業並に消息を登載して各家庭に頒つ。

六、家庭通信、成績回覽、家庭への照會等に依り相互の連絡を圖る。

七、父兄を講師とする講演會座談會 本校の如く軍人・教授・醫師・官吏等を父兄として有つ學校に於いては適宜機會をとらへてそれぞれの道についての科外講演を願ひ、又職員と座談會を催して教師及兒童の教育の便宜を圖る。

八、運動會・表現會・展覽會 每學期に配當して之等の所謂學校祭を催して、その日は全校舉つて和氣霽々の中に然も

平素の學校生活の全貌を示し、父兄達も亦進んでこれに参加し應分の力添を御願する。

九、慶弔慰問 各家庭に慶弔慰問すべきことある時は、適宜にこれを行ひ、人情濃き城下街らしさを今も尙漂はせてゐる。

十、保護者の夕 適宜の時に、映畫・舞踊・音樂・講演・童話等の夕を催し、樂しきリズムやメロデーの内に、なごやかな春の宵や、涼しい秋の夜を、教師・父兄・兒童の心から打つけたたのしい時を送る。

以上の方法は屢々繰返し述べた如く、家庭と學校との密なる内面的關聯に導くために考究し、現に實行しつゝある所のものである。別に言へば家庭に於て宿された原型としての生活共同社會を、その全き姿に於て發展せしめるための具體的方法であつて、單なる理想論ではないのである。理想の立場からはかゝる方法も多く欠陥が指摘されるであらうが、我々は我々の現實を調査研究し、之を基礎として最善を信する方途としたのである。

第十三章 生活共同社會學校と教師

一、生活共同社會學校に於ける教師の意味

國民全體社會としての一君萬民の皇國日本への前衛的意味を有つ生活共同社會學校に於ける教師の意味こそ最も重要なものである。即ち明治四十四年東京高等師範學校に當時の皇太子殿下を御名代としてたまはりし御沙汰書

健全ナル國民ノ養成ハ普通教育ノ振興ニ俟ツ、其ノ局ニ當ル者益々勵精セヨ。

の聖旨を拜し、更に昭和六年には同じく東京高等師範學校に聖上陛下御自ら行幸遊されて

健全ナル國民ノ養成ハ一ニ師表タルモノノ徳化ニ俟ツ事ニ教育ニ從フモノ其レ奮勵努力セヨ。

と仰せたまひ、又小學校令施行規則第三十三條に「學校長及教員ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉體シ法律命令ニ從ヒ誠實ニ其ノ職務ニ服スヘシ」の法文を見る時、實に小學校教育者こそは一面法規的意味に於いて國家の原本的機能としての國民教育の重任を背負ひて以て皇國日本なる國民全體社會の一成員として生活の必然を宿命づけられてゐると共に、更に尊くも聖上陛下の大御心よりの御信賴と御期待の恩寵を忝うせる光榮の運載者である。然る限り教師はまことに檜崎博士のいはるゝごとく「一天萬乘の天皇陛下の御心に連り、天皇の御心の連続として動いてゐなくてはならない。國民意識の統一とは國民の心が建國の精神に立脚し、天皇陛下の御心に連つて、天皇陛下の御心のまゝに動くに至ることを意味する」ともく、教師自らが日本民族の根源力たる「清き明き直き心」を基とし、建國の大精神を明徴にし、國體の精華を究め教育の淵源に溯り、身を以て「斯ノ道」の體現者となり以て自ら努めて眞に皇道を天下に宣揚し皇國日本を不拔に培ひ日本民族を永遠に著くするの國士であり殉教者たり闘士たるの氣魄と士氣にとみつゝ、然も一面に日本人らしい「言あげせぬ國」の正統を體現するものとして正しきを黙々として謙讓の内に實踐するに敏であり、自己の全人格的生活を以て學校社會に生活し兒童を陶冶するものでなければならぬ。即ち教師こそは至誠なる乾坤の大道に則り、忠君愛國なる皇國の本義に徹し行住座臥もいやしくもせざる自らの精進を以て子弟の根本性格の發揚を企圖し扶助し以て教育報國の實を擧ぐるものでなければならぬ。「右文左武」といふ限り眞に之を國家社會とし、個々人としても文的なるもの、即ち教化の道こそ、武的なるものに比してまさるともおとらざる重要性を有つものであるにかゝらず、餘りにも甚しい現實の教化的機能にあるものゝ權威の失墜せるを慨せざるを得ない、この限り皇國日本を不拔に培ふ生活共同社會學校に於ける教師こそは嚴然たる師道復興、教權再建の先覺者でなければならぬ。

二、生活共同社會學校に於ける教師の地位

更に本質的に考ふるもかつてのべし如く教師は人類文化の電載者であり、人道の具現者であり、素材的なる兒童に對し形相的意味を有つ限りこゝに教師は嚴然たる權威者とし教授者として、即ち父性的なるものとして兒童にせまらねばならぬ。

餘りに教師中心、教權萬能の末に墮して兒童を窒息せしめ若き魂を萎縮せしめしと考へらるゝ所謂舊教育に對し「全てを兒童より」のエレンケイ的な新教育の理念は何時しか教師をして兒童の放任者甚だしきは奴隸にまで墮落せしめた。かくの如き兒童におもねるの教師は皇國日本の教師としては斷じて赦すべからざるものである。

然し教師は單に講壇上の專制者であり、教室の王座に位し、學級王國の暴君であるのが其の本質でない。むしろ生活共同社會の形式は教師が兒童に對し誘掖者とし指導者としての生活をより強く要請する。こゝには先進の後進を導き、兄弟の弟妹を扶く如き綿々たる友愛が働かねばならぬ。

更には教師は兒童と同等の地位にまで降り、共に學び、共に遊び、共に働き、共に煩むの温き同情者であり、よき相談者であり、扶助者であり、保護者であり、同行者であり、仲間としての生活姿態を要請される。こゝに教師は更に深く母性型であり、エロスのなるものを要求される。然しそれはゲーテがウィルヘルム・マイスターの教育郷にのべる如き眞の意味に於いての「下なるものへの畏敬の念」を基本として初めて許されるものであつて、單なる溺愛は遂に教育の世界からは極力排撃さるべきである。

かくして生活共同社會學校に於ける教師の生活姿態は複數性を有つものであるが、何れにしてもそれは敬愛なる教育の原本精神を基とし「夜叉の姿も觀音の相」の如くに一にまことの皇國日本を不拔に培ひ、民族を永遠に蕃くし、皇運を天壤無窮たらしめるの教育闘士であり、盡忠者であり、更にいへば西郷南洲の所謂「蓋學校者、所以育善士也、不只是一郷一國之善士、必欲爲天下之善士矣」と私學校綱領にあるが如き信念の下に更に自ら人道の體現者とし、人類福祉への貢獻者として確信し、學校を以て檜崎博士のいはるゝごとく

一、人間教育の道場である

二、日本國民教育の道場である

三、發達力教育の道場である
 四、實踐力教育の道場である。
 とし、更にまとめて

一、日本魂の教育の道場である
 二、實力の教育の道場である。

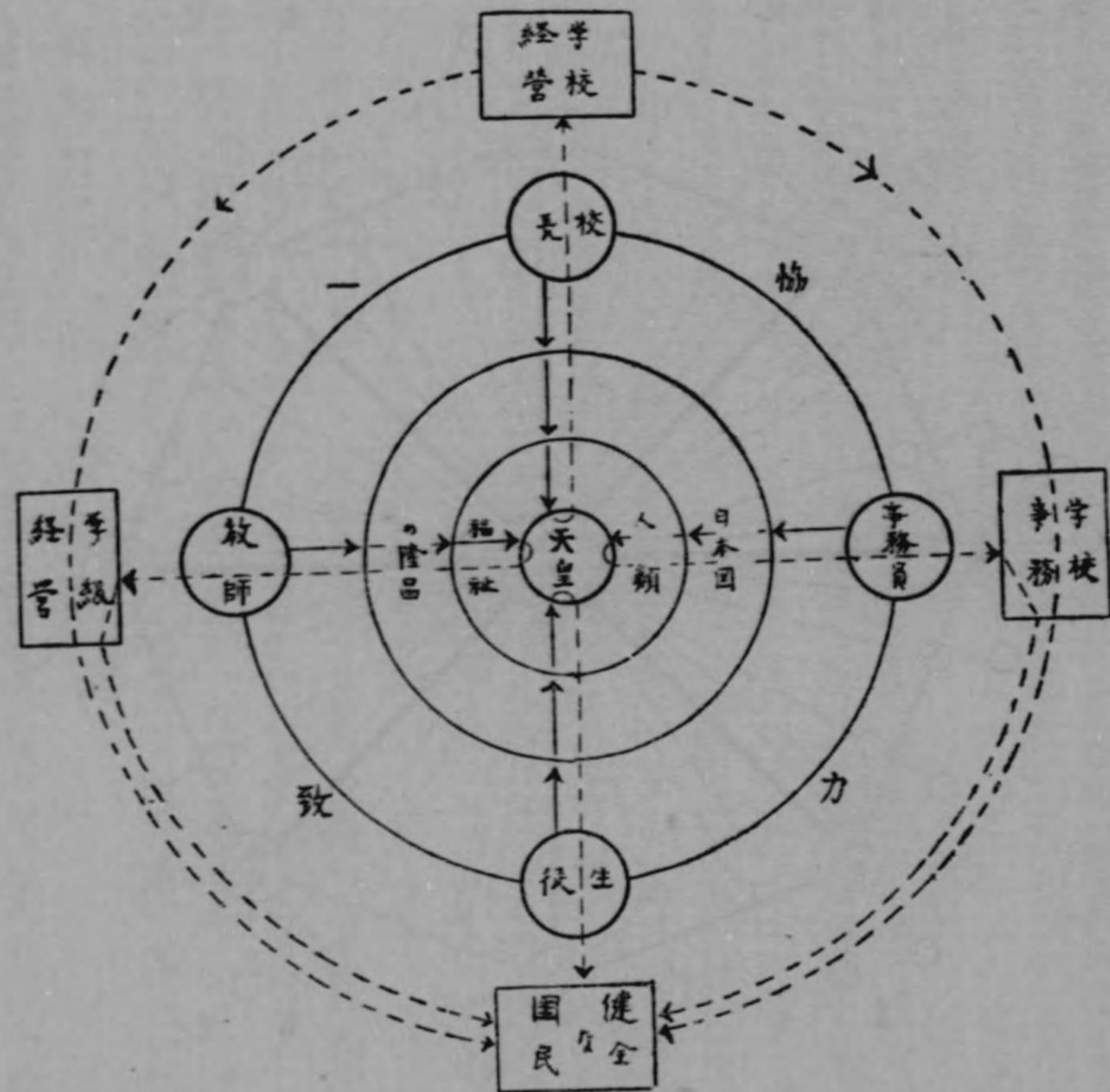
と觀じ、この道場に自らは師匠として嚴在しつゝ、然も常に子弟と共に斯道に精進するの兄弟子とし仲間としての氣分と生活を失はざるものでなければならぬ。

三、教師の共同社會

生活共同社會學校の形實を擧ぐるためには教師は前述の如き意味と地位とをよく自覺しつゝ、然も各々は必然に自ら教師生活共同社會を創造し生活することによつて全體を共同社會化することが出来るのである。即ち學校長は學校社會生活の主本であり學校精神の發源を爲すものとし、自ら敬愛の精神を體現し、率先して生活によつて生活を陶冶するの重任を果さねばならぬ。然も眞に學校社會の理想を實現するためには其の性格・思想・感情・地位等はことなるものとも全校職員が一の理念に於いて働き和衷協力以て教師間の共同社會をして最も望ましいものたらしめねばならぬ。聖徳太子の十七條憲法の

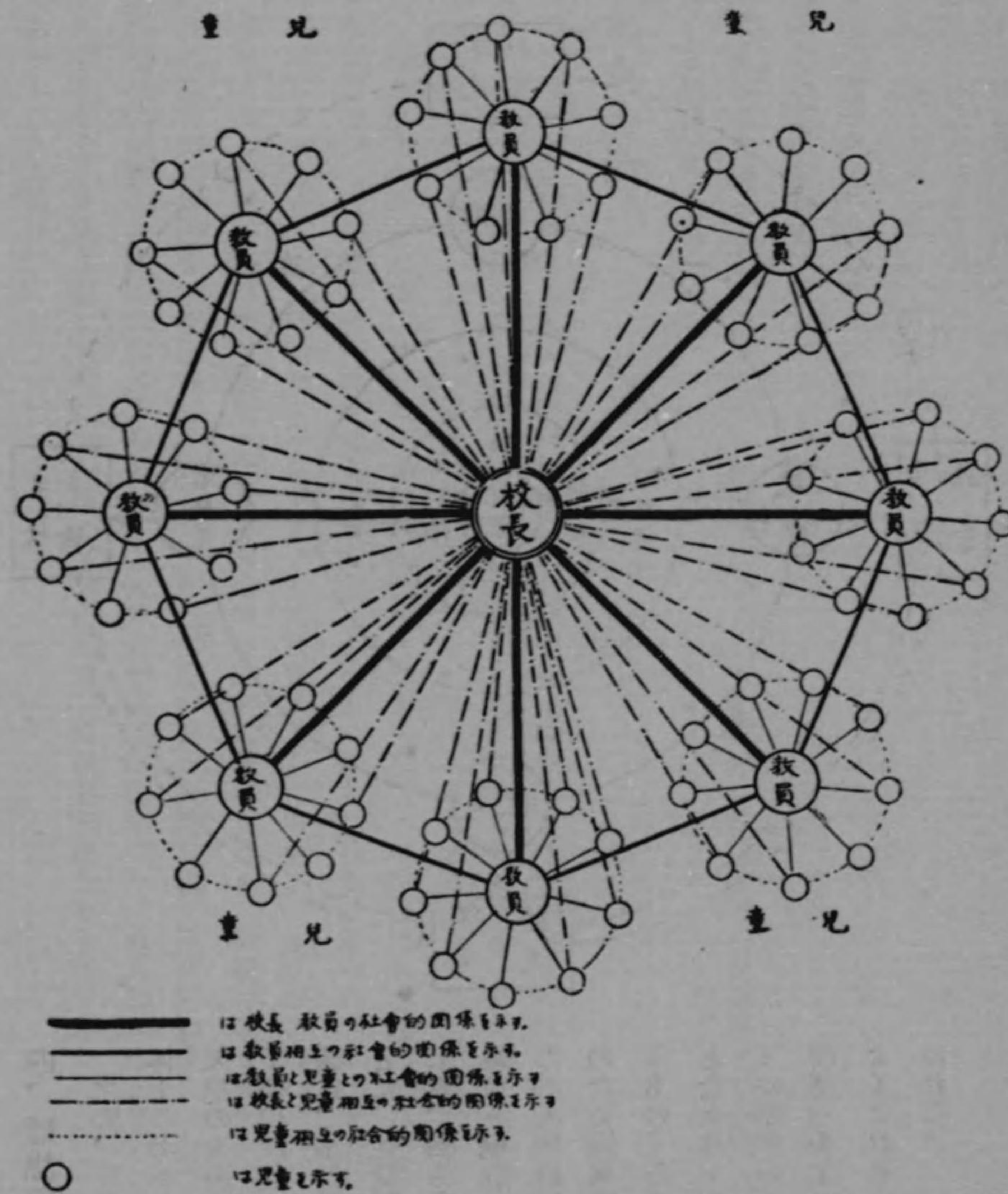
一ニ曰ク「和ヲ以テ貴ト爲シ忤ルコト無キヲ宗トセヨ、人皆黨アリテ亦達者少シ、是ヲ以テ或ハ君、父ニ順ハズシテ乍チ隣里ニ違フ、然レドモ上和ギ下睦ビ事ヲ論ニ諧ヒヌル時ニハ則チ事理自ラ通ル、何事カ成ラザラン」

の御諭の理念は實に今も尙私等の生活原理として輝くであらう。されど「我職を越え他官を侵すこと嚴禁たるべし」と説かるゝごとく、眞の生活共同社會は附和雷同にあらずして各人は自律克己の徳をつみ、他人の人格を尊嚴し、職能の本然を承認し、苟もそこに冒瀆輕侮の念なく眞に人間的なるもの、即ち敬愛、威信を根帯として唯一なる理念の下に分肢し機能する精神的有機體であらねばならぬ。



四、理想の學校組織

之要、理想の學校は、檜崎博士の考へられし圖示の如く天皇の大御心を學校長は體して學校經營に、教師は學級經營に、事務員使丁等はそれと共に、生徒兒童は學業にいそしみ、然も各人はそれぞれの地位と機能に於いて協力一致し、人類の福祉と皇國の隆昌のため關與する如き理念にあるものであつて、その間にとなまるゝ生活共同社會としての學校の人的作用機構は北澤種一先生の次の如き圖示がよくこれを表はしてゐると思はれる。



即ち校長を太陽とし、各學級教師を遊星とし、児童を衛星とせる如き一體系を作り、そこに同一なる學校精神、教育理念によつて互通する生活共同社會學校こそ望ましい學校形態である。

五、教師の生活型

具體としての教育の成否如何は究極教師其人の人格性、活動性如何に關するが、そこに生活共同社會學校の教師の理想類型を考へやう。理想の教師はその時代及び社會の價值觀即ち教育乃至學校を具體的に形態化せしめるイデオロギーの如何によつて類型を異にするものでもあるが、クインティリアヌスも叫び、ハルシエンシュタイナーも強調せる如くに「教師は道徳的なれ」の命題は遂に永遠に眞理であらう。特に生活共同社會學校の如く全人格的に生活によつて生活を陶冶する下に於いては、アウグスチノスのいふ如く「児童に對する心からなる愛」更に東洋的にいへば「人間敬愛」の精神を中核とし「全てを他のためにし何も我がためにせぬ」ベスタロッチの如き人道の殉教者としての心情に徹し、吉田松陰の如く身を以て教育報國の誠を致すの純情に生きる犠牲的精神にみちつゝ、ファストの如くに永遠により高き價值に憧れ、より美はしき理念に導かるゝ向上的生活を希求して己自身をたへず高め、然も孔子の如くソクラテスの如く醇々乎として應地應人の生活指導の教育行に精進するの實踐性に豊かなものでなければならぬ。かくの如きはもとより天稟として備はるものもあらうが、それは求めて容易に得られざること、こゝに教師自身の理念類型を指標としての不斷の修養が要請される。エストライチが「教育者とは自ら人間となりつゝあることによつて現實を構成しゆく」といひ又「常に進みつゝあるもののみよく人を導く」といはれる如く、眞の教育者とは自らを以て貧しく、醜く、足らざるが故にたゆむことなく精進し修養する同行者の姿であらう。教育を生活とし更には教育を行するものこそ生活共同社會學校の理想的教師なのである。

六、教師の再教育

かゝる教師の修養は個人的には人間としての自らのため讀書につとめ、反省を行ひ、趣味に生き、宗教的行にひたり、旅

行や見學を試みる等の修養につとめると共に、又教師としては日々の教科教材に關する本質的研究につとめ、兒童及郷土環境等をよりよく調査し、認識し、最も望ましい教育方法を體驗として見出し、確立するにつとめねばならぬ。

更に學校全體として其の學校教育の根本精神を明徹にし、教育方針を再吟味しつゝ不斷之と共に進み、人と共に歩み、望ましい理想的な生活共同社會學校そのものを實現することのための諸施設を行ひ、その所期の目的を達成するにつとめねばならぬ。こゝに共同研究會、研究教授等が要請される。然も敬愛を基とする職員社會を以て學校を指導する限り、娛樂・修養・趣味・運動等種々の形式に於ける共同的營爲が又必要である。かくして教師の再教育は同時に學校の理想化を意味するに到る。

昭和八年六月二十日印刷
昭和八年六月二十四日發行

(非賣品)

兵庫縣姫路師範學校
著者 石崎恒次郎

神戸市湊東區相生町三丁目五六
印刷所 神戸社印刷所

神戸市湊東區相生町三丁目五六
印刷者 村上蕃

發行所 兵庫縣姫路師範學校附屬小學校

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

CHICAGO, ILLINOIS

1950

PRINTED IN GREAT BRITAIN

UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS
530 North Dearborn Street
Chicago, Illinois 60610
(312) 837-3000

